

西部地域

浜松市
湖西市

磐田市
御前崎市

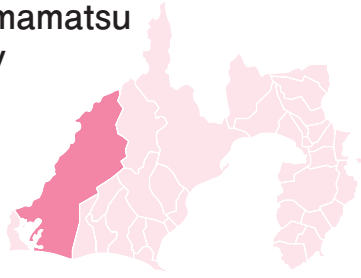
掛川市
菊川市

袋井市
森町



浜松市

Hamamatsu City

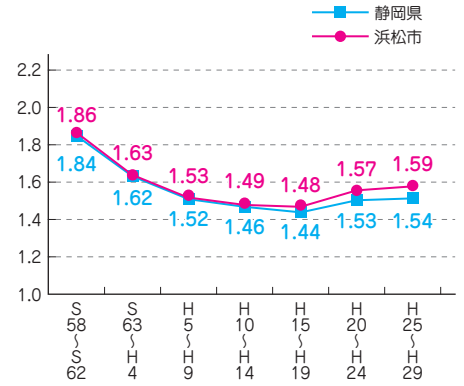


合計特殊出生率
[H25~H29]

1.59

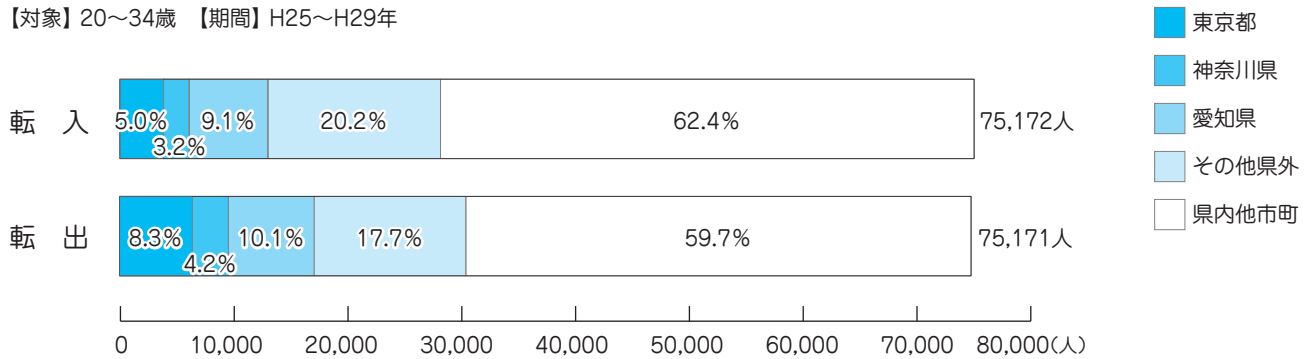
● 人口 802,527人
● 世帯数 341,385世帯
● 総面積 1,558.06km²

※令和2年1月1日現在



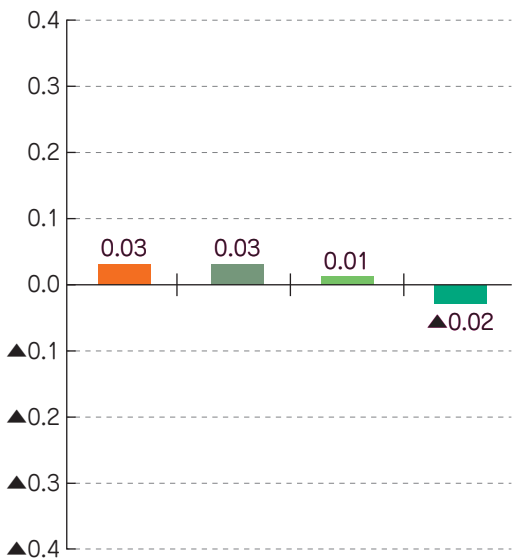
1 合計特殊出生率に影響を及ぼす転入・転出数

【対象】20~34歳 【期間】H25~H29年

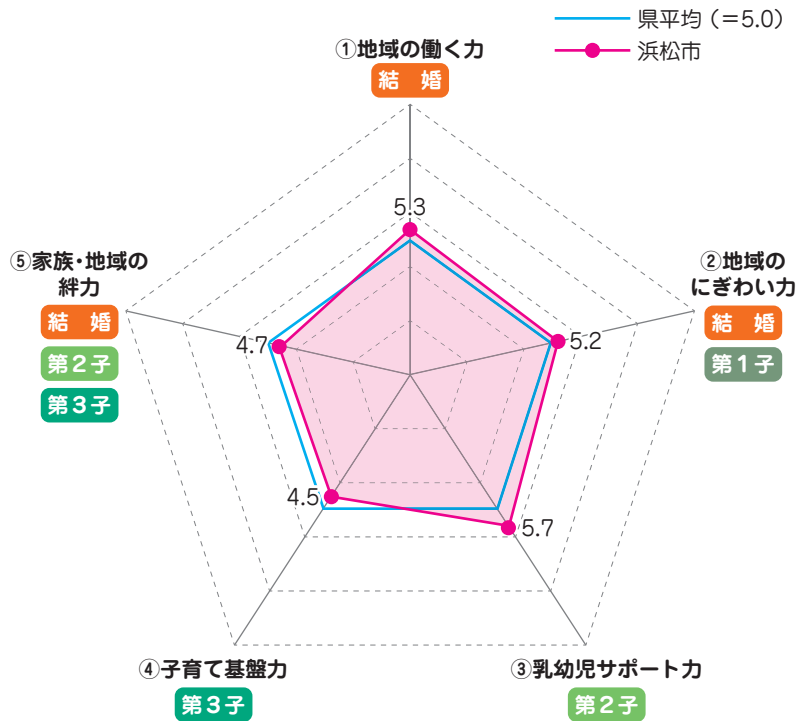


2 合計特殊出生率の要因分解

結婚要因 出生力要因
第1子 第2子 第3子以上



3 合計特殊出生率に影響を及ぼす新しい5つの地域力



「要因分解」の結果と「5つの地域力」との関係

結婚要因

「⑤家族・地域の絆力」は県平均を下回ったものの、「①地域の働く力」「②地域のにぎわい力」は県平均を上回っており、+0.03につながったと考えられる。

第1子要因

「②地域のにぎわい力」は県平均を上回っており、+0.03につながったと考えられる。

4 少子化“突破”に向けた特徴的な取組

子育て支援ひろば(妊婦支援)

《目的》

妊娠中から気軽に参加できる「子育て支援ひろば」の開催を通じて、出産・育児に関する妊婦の不安を軽減するとともに、地域で孤立することなく、安心して妊娠・出産・育児ができる環境を整えることで、第2子以降も産み育てたいと思える機運の向上につなげる。

《概要》

アンケート調査によると、約半数の妊婦が「赤ちゃんを触ったことがない」と回答していることから、本市では、市内25か所の「子育て支援ひろば」で月2回程度、助産師が妊婦等を対象に子育て情報の提供や育児相談などを行っている。また、実際に赤ちゃんに触れたり、先輩ママの出産・育児の体験談を聞いたりなどしながら交流する場として、地域の子育て情報や家庭の状況に合わせたサービスの使い方なども、子育て支援ひろばの落ち着いた雰囲気の中で共有することができる。



子育て支援ひろば(妊婦支援)の様子

5 わがまちのアピールポイント

●「子育てガイド」の配布

妊娠・出産、転入等により子育て支援を必要とするご家庭に、子育て支援に係る手続き、事業、施設等の情報をライフステージごとに示したガイドを配布し、「子育て情報サイト“ぴっぴ”」とも連携した情報提供を実施。

●未来のパパママ講座

企業や大学・高校等と連携して講座を開催し、これから親となる青年期の男女に、本市の妊娠・出産の現状、妊娠に適した時期、晩婚化による影響、妊娠・出産のために今から心がけておきたいこと等を伝え、自らがライフプランを考えることの重要性を啓発。

●待機児童解消への取組

保育所等の待機児童解消に向けて、既存施設の増改築や地域型保育事業の新設により定員を拡大。また、放課後児童会についても、学校施設・近隣施設の活用や専用施設の整備により定員を拡大するとともに、運営方式の統一を段階的に進め、放課後児童支援員等の処遇を改善し、人材を確保。

6 首長からひとこと

子どもの育ちと若者の自立を支え、安心して暮らすことができるまち浜松

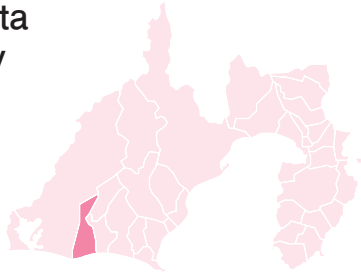


浜松市では、一人一人の子供が生き生きと輝き、保護者にとって子育てがしやすく楽しいと感じられる社会を実現するため、令和2年3月に策定した第2期子ども・若者支援プランに基づき、安心して子どもを生み育てられる環境づくりを推進しています。地域全体で子育てを支援し、親が子育てに喜びを見出せるまちを目指します。

浜松市長 鈴木 康友

磐田市

Iwata City

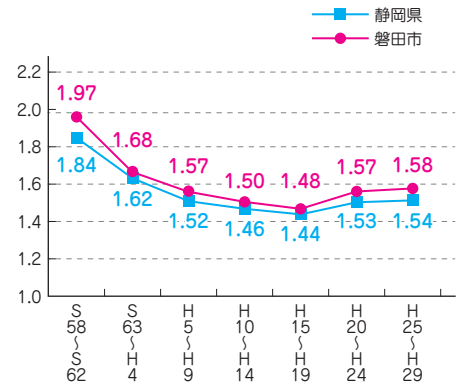


合計特殊出生率
[H25~H29]

1.58

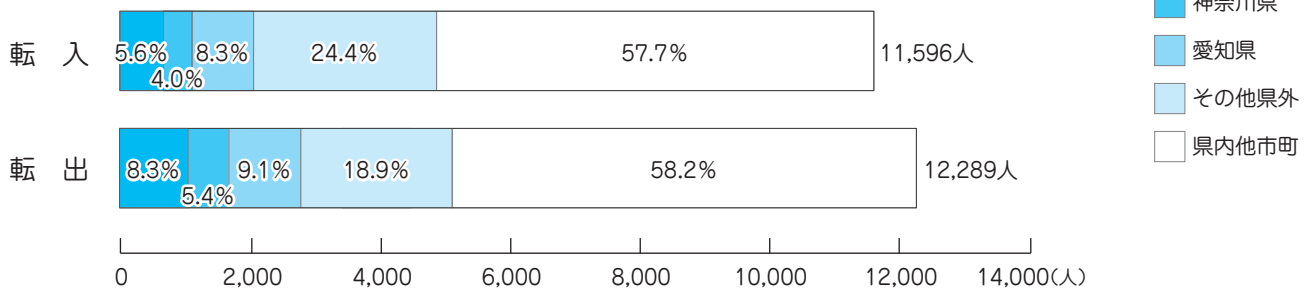
●人口 169,818人
●世帯数 68,501世帯
●総面積 163.45km²

※令和2年1月1日現在



1 合計特殊出生率に影響を及ぼす転入・転出数

【対象】20~34歳 【期間】H25~H29年

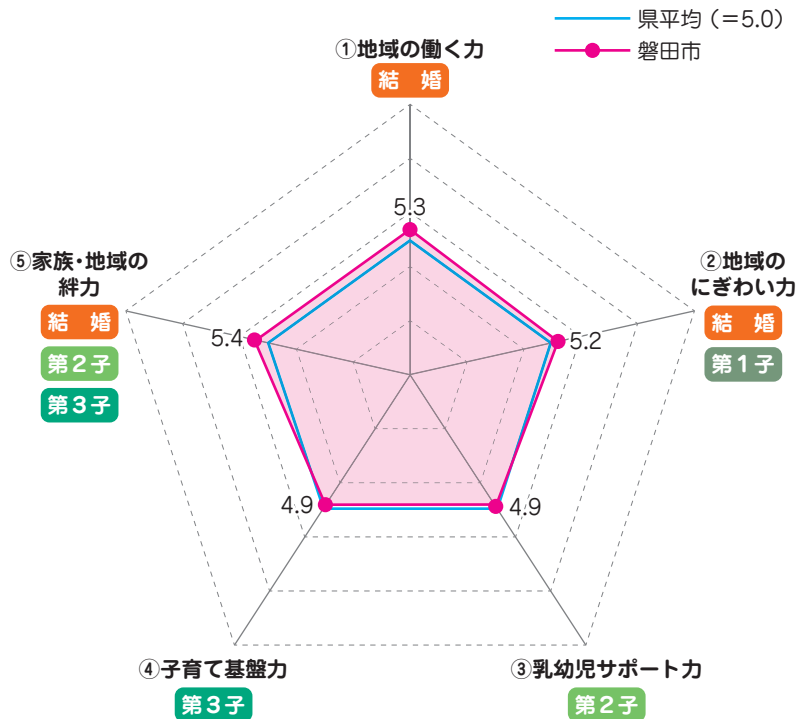


2 合計特殊出生率の要因分解

結婚要因 出生力要因
第1子 第2子 第3子以上



3 合計特殊出生率に影響を及ぼす新しい5つの地域力



「要因分解」の結果と「5つの地域力」との関係

結婚要因

「①地域の働く力」「②地域のにぎわい力」「⑤家族・地域の絆力」がいずれも県平均を上回っており、+0.07につながったと考えられる。

第2子要因、第3子以上要因

「③乳幼児サポート力」「④子育て基盤力」は県平均を下回ったものの「⑤家族・地域の絆力」は県平均を上回っており、③と⑤、④と⑤の効果がそれぞれ打ち消し合い、0.00となったと考えられる。

4 少子化“突破”に向けた特徴的な取組

子育て支援と図書館を融合させた新しい形の施設「ひと・ほんの庭 にこっと」

《目的》

人と本を介し、「相談」「子育て支援」「市民交流」「学びの支援」などを提供し、子どもや若者の成長を取り巻く様々な思いや不安、悩みに寄り添い支援する。子どもと子どもに関わる全ての人が明日に向かい「にこっと」笑顔になれる施設を目指す。

《概要》

- 図書等資料の貸出や活用。
- 保育士・保健師を含むスタッフや外部講師による子育て相談。
- おはなし会やブックスタート、企画展示による人や本との出会いのきっかけづくり。
- 子育て中の方の就労支援「にこっとハローワーク」。
- 子育て中の方も使いやすい設備。（授乳室や子どもトイレ等）
- 学習室や天体観測室、飲食可能スペース、貸部屋（有料）もあり、多様な過ごし方が可能。



「ひと・ほんの庭 にこっと」

5 わがまちのアピールポイント

● 小中一貫教育と英語教育を全ての子どもたちに

9年間での、育成・教育を地域とともに考え、中学校区ごとに小・中学校共通のビジョンに基づく学びを創出。また、中学校卒業時にゆっくりでよいので、英語で会話ができることを目指し、小学校低学年から英語を使ったコミュニケーションの場を提供。

● 雇用・住環境の充実に向けて

製造業を中心とした企業が多く立地しているだけでなく、次世代型農水産業の推進、新たな工業団地が完成するなど、充実した雇用の維持及び拡大に取り組み中。また、JR 御厨駅や新東名高速道路へ新磐田スマート IC が設置されるなど、利便性に優れた住環境を整備。

● 安心して子育てができる環境の整備

子どもから若者までのあらゆる相談に一体的に対応する「こども・若者相談センター」や子育て支援センターなどでの相談体制を充実するとともに、保育環境の充実や待機児童解消のため幼稚園・保育園・こども園の再整備を進め、子育て世代の皆さんが住みやすい環境を整備。

6 首長からひとこと

みんなの手で、磐田の未来を開く子育てのまちを創ります

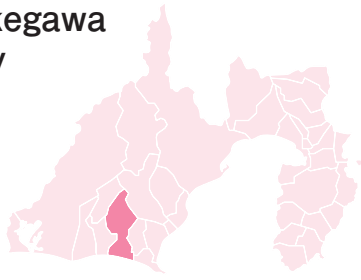


本市では、「子育て・教育なら磐田」を掲げ、未来を担う子どもたちが夢や希望をもち、たくましく育つ環境づくりを進めるため、妊娠から出産、子育てまで、切れ目のない支援の充実に取り組んでいます。これからも、安心して子どもを産み、育てることができるよう、きめ細やかな施策を実施し、本市に住んでよかったと多くの方に実感していただけることを目指します。

磐田市長 渡部 修

掛川市

Kakegawa City

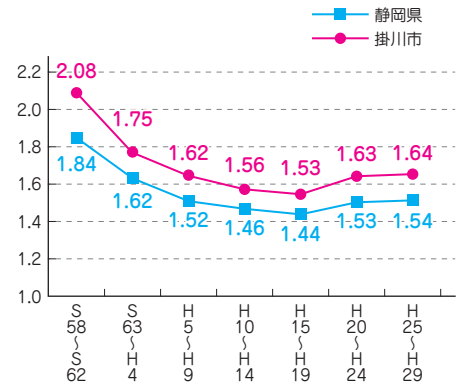


合計特殊出生率 [H25~H29]

1.64

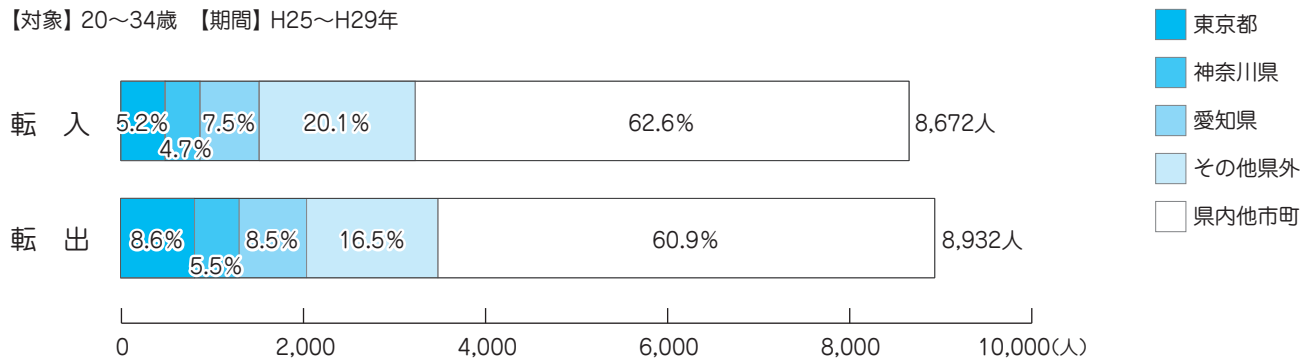
● 人口 117,804人
● 世帯数 45,535世帯
● 総面積 265.69km²

※令和2年1月1日現在



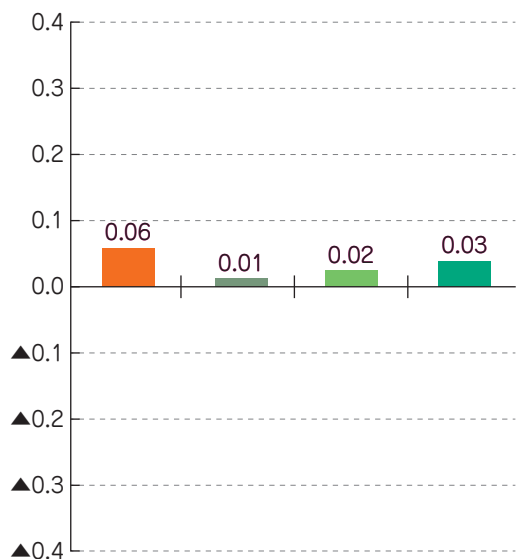
1 合計特殊出生率に影響を及ぼす転入・転出数

【対象】20~34歳 【期間】H25~H29年

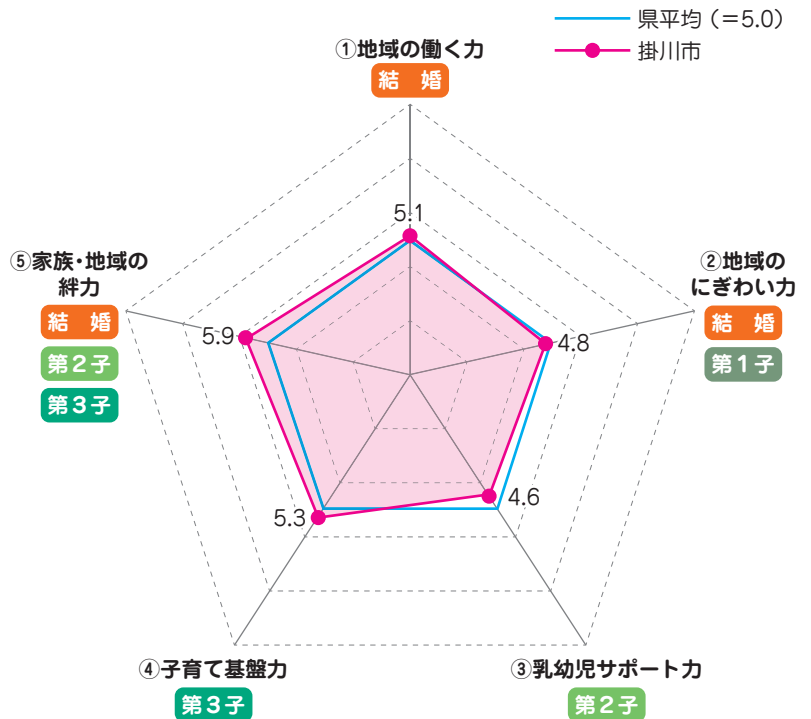


2 合計特殊出生率の要因分解

結婚要因 (Marriage Factor) | 出生力要因 (Fertility Factor)
第1子 (1st child) | 第2子 (2nd child) | 第3子以上 (3rd child and above)



3 合計特殊出生率に影響を及ぼす新しい5つの地域力



「要因分解」の結果と「5つの地域力」との関係

結婚要因

「②地域のにぎわい力」は県平均を下回ったものの、「①地域の働く力」「⑤家族・地域の絆力」は県平均を上回っており、+0.06につながったと考えられる。

第3子以上要因

「④子育て基盤力」「⑤家族・地域の絆力」がいずれも県平均を上回っており、+0.03につながったと考えられる。

4 少子化“突破”に向けた特徴的な取組

「子どもが健やかに生まれ育つまち掛川」を目指して

《目的》

社会に希望と活力をもたらす「地域の宝」である子どもたちを育てるため、家庭・地域・企業などが協働して、妊娠・出産期からの切れ目のない子育て支援の環境を整備する。

《概要》

- 家庭教育の充実（掛川流子育て応援事業「スキップのすゝめ」）
- 相談・支援の充実（子育てコンシェルジュの訪問事業、児童館、子育て支援センター等 16 か所）
- 待機児童対策（保育園等の定員拡大や、お仕事応援相談会、保育士等就職応援資金貸付事業による保育士確保）
- 大東・大須賀区域の認定こども園化の推進
- 子育てに優しい事業所づくり
- 子育て世代向け認定住宅や新たに3世代同居を始めるための住宅の新築・増改築に要する費用の一部を助成し子育て環境の充実を促進



新設されたおおさかこども園



児童交流館であふれる親子の笑顔

5 わがまちのアピールポイント

● 健やかな成長を支える環境づくり

徳育保健センター内に子育て世代包括支援センターを設置し、市内5か所の地域健康医療センター「ふくしあ」を活用した子育て相談を、保健師、子育てコンシェルジュが連携して開催し、子育て支援体制を構築。

● 乳幼児教育・保育の質の向上

「かけがわ乳幼児教育未来学会」を中心とした教育・保育の質の向上を目指した体制の充実。

● 配慮を必要とする子どもや家庭の支援

発達相談支援センター「のびる一む」や交流スペース「のびっこ」により、発達に不安を抱えるご本人やご家族等に寄り添いながら、必要な医療機関や支援機関と連携し、相談や情報交換ができる、あそびや交流の場の提供。

6 首長からひとこと

子どもが健やかに生まれ育つまち掛川

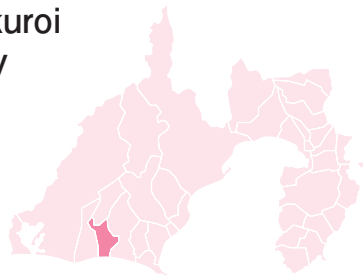


掛川市では、「健康・子育て日本一」「希望が見えるまち・誰もが住みたくなるまち掛川」の実現に向け、結婚・出産・子育てについて、希望や状況に応じた選択ができるよう、子育て世代の経済的負担軽減や待機児童対策の推進、幼児教育・保育の質の向上等により、出生数の増加や移住・定住など持続・発展可能なまちづくりを進め、子育て世代が望む子育てしやすい環境整備を図ってまいります。

掛川市長 松井 三郎

袋井市

Fukuroi City

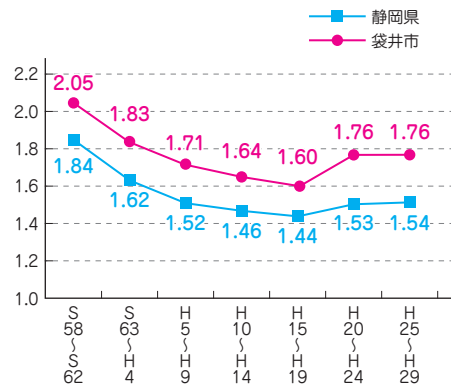


合計特殊出生率
[H25~H29]

1.76

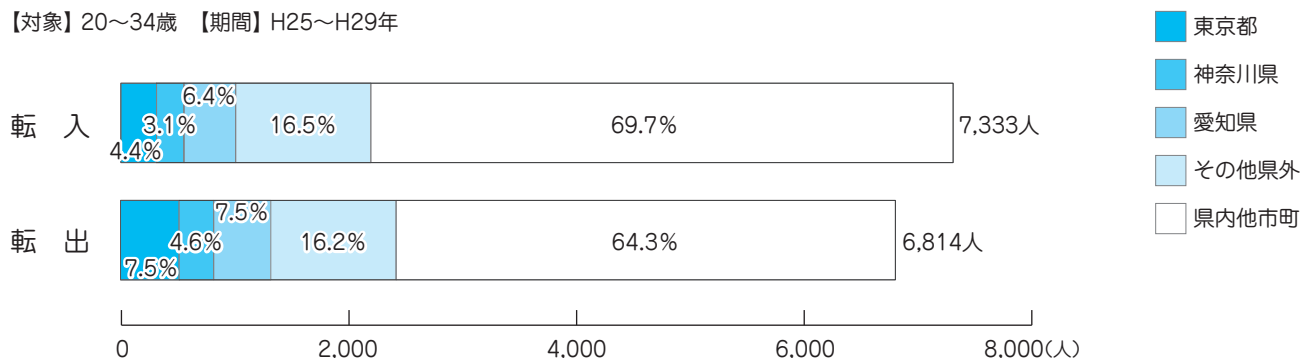
● 人口 88,521人
● 世帯数 35,094世帯
● 総面積 108.33km²

※令和2年1月1日現在



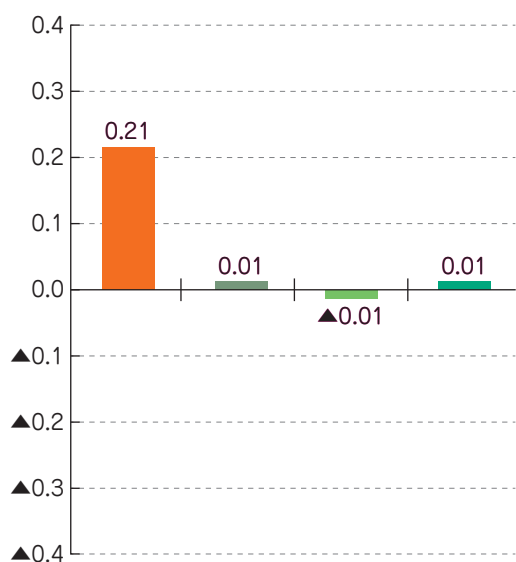
1 合計特殊出生率に影響を及ぼす転入・転出数

【対象】20~34歳 【期間】H25~H29年

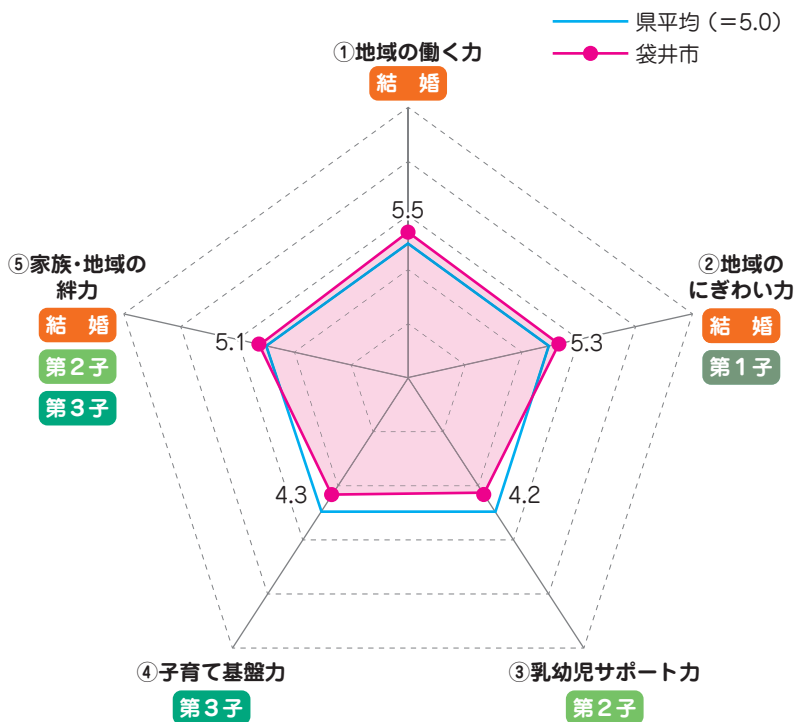


2 合計特殊出生率の要因分解

結婚要因 出生力要因
第1子 第2子 第3子以上



3 合計特殊出生率に影響を及ぼす新しい5つの地域力



「要因分解」の結果と「5つの地域力」との関係

結婚要因

「①地域の働く力」「②地域のにぎわい力」「⑤家族・地域の絆力」がいずれも県平均を上回っており、+0.21につながったと考えられる。

第1子要因

「②地域のにぎわい力」は県平均を上回っており、+0.01につながったと考えられる。

4 少子化“突破”に向けた特徴的な取組

子どもたちが将来の夢に向かって、たくましく成長する教育環境に力を入れています

《目的》

不確実で変化の激しい時代を生き抜くために必要な「自立力」（一人で生きる力）と「社会力」（みんなと生きる力）を身に付ける深い学びを重視した教育を推進する。

《概要》

● 幼小中一貫教育の実施

市内の4つの中学校区ごとに小・中学校と幼稚園、保育所等が学園を構成し、3歳から中学卒業までの12年間を通じた教育プログラムを実施。これにより、幼児教育では学習の土台となる「生活習慣」や「学びに向かう力」等を養うとともに、小・中学校では「基礎学力」に加え、これからの時代に求められる「考える力」や「自己有用感」を育む。また、質の高い学びをサポートするICT機器や思考スキル・思考ツールを積極的に導入、活用している。



ICTを活用した学習の様子

5 わがまちのアピールポイント

● 認定こども園「子育てセンターにじいろ」を整備しています

令和4年4月開園に向け、認定こども園「子育てセンターにじいろ」（定員280名）の整備が市の中心部で進められ、周辺は親子で運動できる体育館、プールなどの施設や小学校が立地するなど、子育て環境は抜群！

● スポーツを活かしたまちづくりを進めています

ラグビーワールドカップ2019が開催された袋井市では、小学生や親子を対象としたラグビー教室を開催。そして、令和2年に完成した「さわやかアリーナ」を拠点とした、スポーツを活かしたまちづくりを推進。

● 袋井駅南地区に魅力的なまちが誕生します

袋井駅南地区は、認定こども園やメディカルタウンが立地し、令和3年秋に6haの広大な敷地に商業施設や水辺を活かした遊水池公園が完成。公共交通の利便性も高く、働きながら子育てする機能が充実。

6 首長からひとこと

子どもがすこやかに育ち、みんなが健康で幸せに暮らすまち ～子育てするなら袋井市～

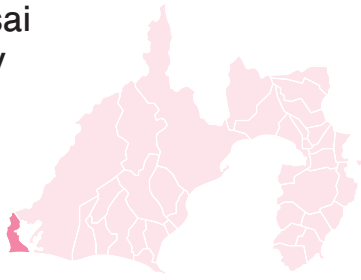


袋井市の合計特殊出生率は、県23市中1位で、人口が増え続けるなど、若い世代が多い元気なまちです。これからも活力あるまちを維持するため、結婚から出産、子育て、教育環境の充実に向け、多様な子育て支援施策を充実してまいります。

袋井市長 原田 英之

湖西市

Kosai City

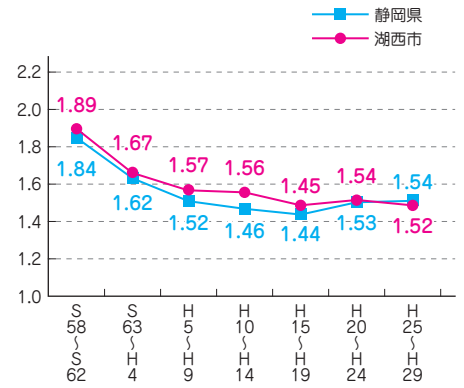


合計特殊出生率
[H25~H29]

1.52

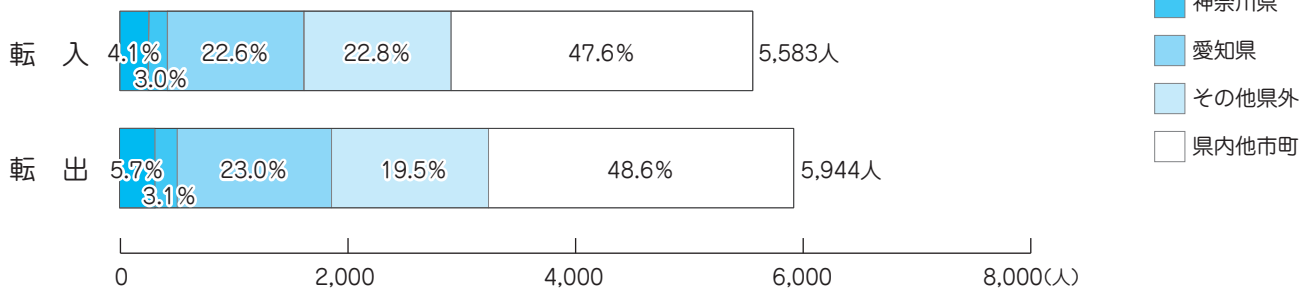
● 人口 59,656人
● 世帯数 24,331世帯
● 総面積 86.56km²

※令和2年1月1日現在



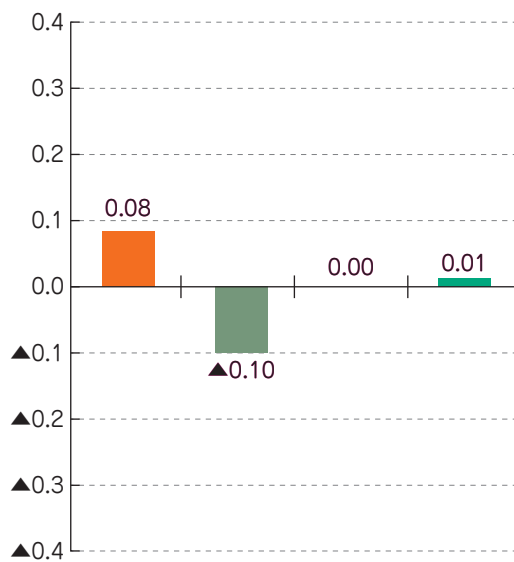
1 合計特殊出生率に影響を及ぼす転入・転出数

【対象】20~34歳 【期間】H25~H29年

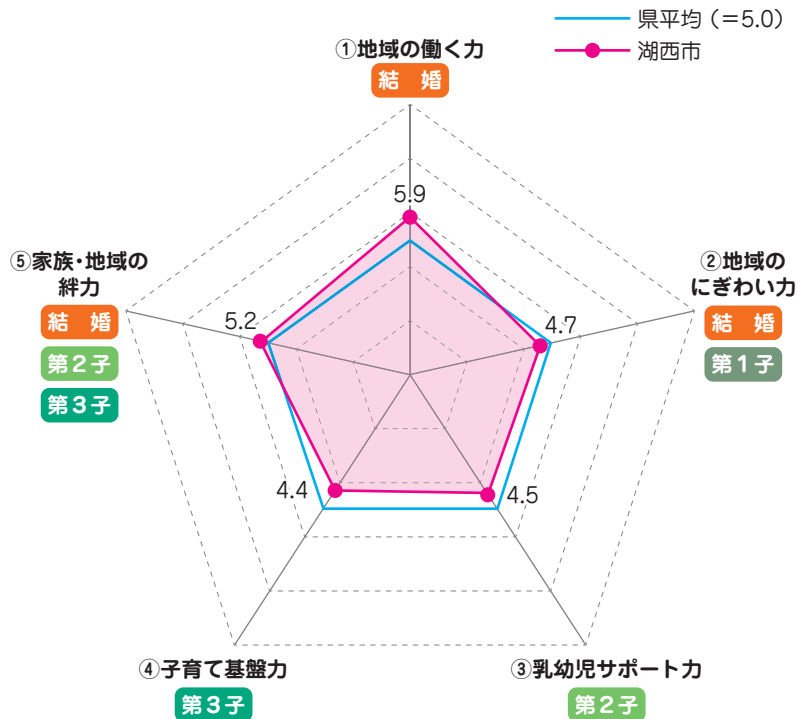


2 合計特殊出生率の要因分解

結婚要因 出生力要因
第1子 第2子 第3子以上



3 合計特殊出生率に影響を及ぼす新しい5つの地域力



「要因分解」の結果と「5つの地域力」との関係

結婚要因

「②地域のにぎわい力」は県平均を下回ったものの、「①地域の働く力」「⑤家族・地域の絆力」は県平均を上回っており、+0.08につながったと考えられる。

第3子以上要因

「④子育て基盤力」は県平均を下回ったものの、「⑤家族・地域の絆力」は県平均を上回っており、+0.01につながったと考えられる。

4 少子化“突破”に向けた特徴的な取組

ライフステージに沿った充実した補助制度

《目的》

湖西市では、「就職・結婚・住宅購入」の3つのライフステージに合った補助制度を用意し、湖西市に移住・定住される方を応援しています。新たな生活のスタートは湖西市で!!

《概要》

- わ〜くわく「こさい」で新生活! 奨学金返還支援補助金
 - ・市内に住み、本事業の協力事業者就職した方が対象
 - ・企業と市が協力して、申請者が大学等学生時に利用していた奨学金の返還支援を実施
 - ・支援額の最大金額は72万円
- 新婚さん「こさい」へおいでん新生活応援金
 - ・結婚を機に市内に転入する夫婦に10万円の応援金を交付
 - ・転入するのは夫婦二人とも、又はどちらか一人でもOK
- 住もっか「こさい」定住促進奨励金
 - ・市内に住宅を購入し居住する方に最大100万円の奨励金を交付
 - ・新築住宅はもちろん、分譲マンションや中古住宅も対象
 - ・市外から転入してくる方はもちろん、市内に居住の方も対象



詳しくは湖西市の移住・定住促進ウェブサイト「湖西で暮らそう。」をご覧ください。

ライフステージに沿った支援制度の概要

5 わがまちのアピールポイント

- 高校生までの子どもの医療費が無償
保険診療の対象となる入院・通院・調剤にかかる医療費の自己負担額を全額助成。
- 不妊治療への助成
医療保険が適用されず、高額な医療費がかかる不妊治療に要する費用の一部を助成。
- 保育園誘致及びこども園化の推進
新設保育園やこども園の開園、幼稚園のこども園化を加速し、待機児童の課題を解決。

6 首長からひとこと

「働くまちから 働いて暮らすまち」 KOSAI

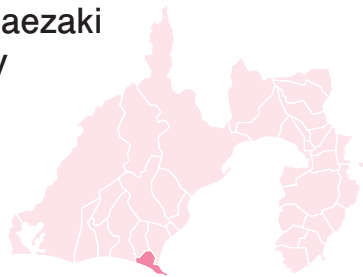


湖西市では、保育園やこども園の新設、既存幼稚園のこども園化を進めるなど、安全・安心な保育環境の確保を実施し、子育てがしやすいまちを目指しています。また市内企業と連携し、市内移動の利便性向上に繋がる次世代型公共交通の実証実験を開始しており、子どもも高齢者も住みやすいまちづくりを進めています。

湖西市長 影山 剛士

御前崎市

Omaezaki City

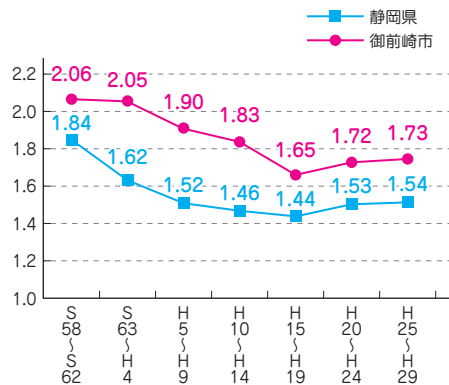


合計特殊出生率
[H25~H29]

1.73

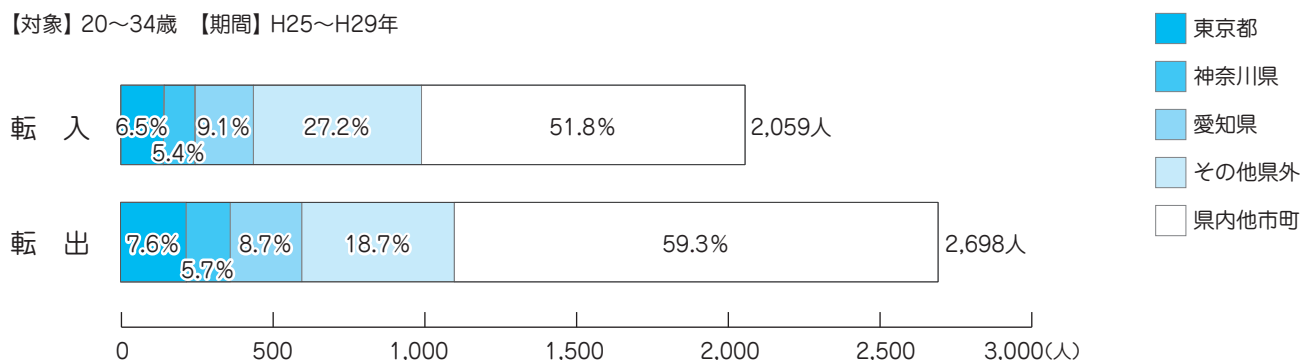
● 人口 32,305人
● 世帯数 12,091世帯
● 総面積 65.56km²

※令和2年1月1日現在



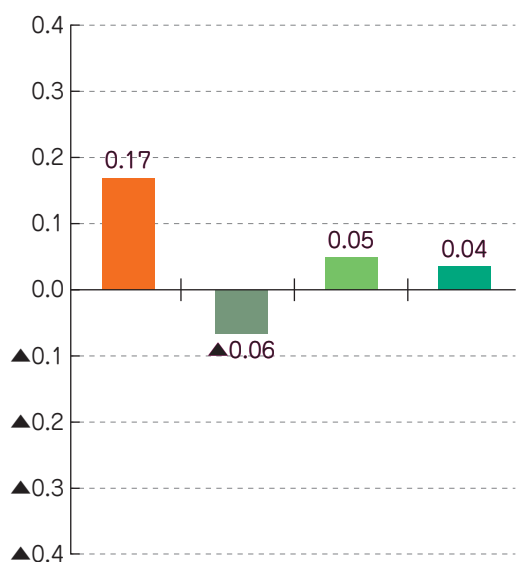
1 合計特殊出生率に影響を及ぼす転入・転出数

【対象】20~34歳 【期間】H25~H29年

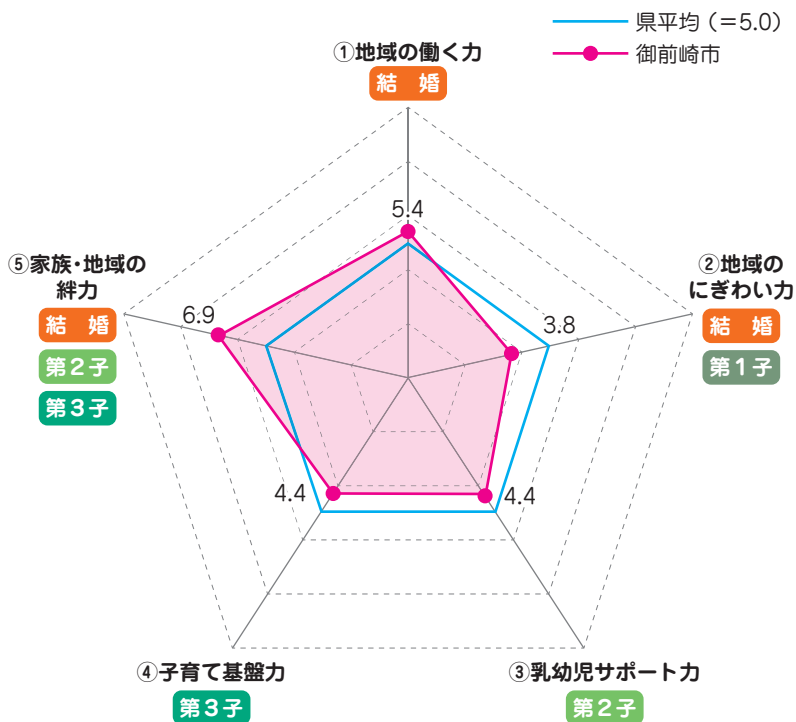


2 合計特殊出生率の要因分解

結婚要因 出生力要因
第1子 第2子 第3子以上



3 合計特殊出生率に影響を及ぼす新しい5つの地域力



「要因分解」の結果と「5つの地域力」との関係

結婚要因

「②地域のにぎわい力」は県平均を下回ったものの、「①地域の働く力」「⑤家族・地域の絆力」は県平均を上回っており、+0.17につながったと考えられる。

第2子要因

「③乳幼児サポート力」は県平均を下回ったものの、「⑤家族・地域の絆力」は県平均を上回っており、+0.05につながったと考えられる。

4 少子化“突破”に向けた特徴的な取組

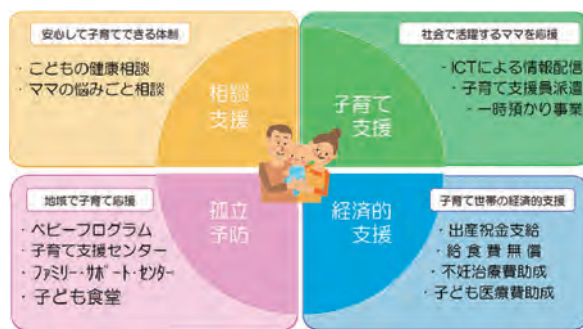
～安心して出産・育児をするために～ パパママセミナー&赤ちゃんが来た!(ベビープログラム)

《目的》

妊娠中に、夫婦で子育て家庭を築いていくことを周知し、子育てや家事など夫婦で協力していくことを促す。また子育て中に孤立しやすい母親に母親同士がつながる機会を提供することで、産後の育児不安を解消し、地域で安心して子育てができるよう支援する。

《概要》

- 夫婦二人の生活から産後は子育て家庭になっていくことを周知し、育児や家事を夫婦で協力していくことを促す。(パパママセミナー)
- 慣れない地域での初めての出産・育児に不安を抱える母親のママ友づくりを応援する。(ベビープログラム)
- 教室終了後、地域の子育て支援センターを紹介することで、母親たちの集いの場となり、身近な相談窓口としても活用を促す。



御前崎市子育て支援事業の概要



絵本の読み聞かせの様子

5 わがまちのアピールポイント

● 子育ての旬な話題を配信 御前崎市LINE

子育ての旬な話題や情報を市公式アカウントLINEにて配信。

● 子育て世帯への経済的支援 出産祝金

子育て世帯の経済的負担の軽減と定住化を図るため、第2子以降の子どもを出産された方で、出産の日まで1年以上御前崎市に居住され、今後も1年以上にわたり御前崎市に居住される方に出産祝金を支給。

- ・ 第2子出産で10万円
- ・ 第3子以降毎年10万円を3年間支給

● 心身ともに元気な子どもに 給食費の無償化

市内の園や小学校、中学校に通う園児・児童・生徒の給食費を無償化。

6 首長からひとこと

子どもたちの夢と希望があふれる おまえざき

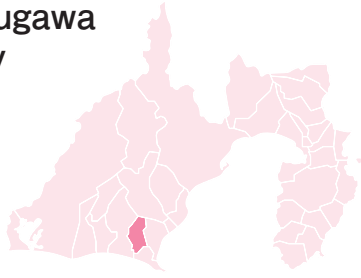


御前崎市では、第2次総合計画に基づき、少子化対策と子育て環境の充実に取り組んでいます。安心して出産・子育てができる環境を整備するために、ICTを活用した情報配信や家庭や園、学校、地域が一体となり、子育てを応援するまちづくりを目指します。

御前崎市市長 柳澤 重夫

菊川市

Kikugawa City

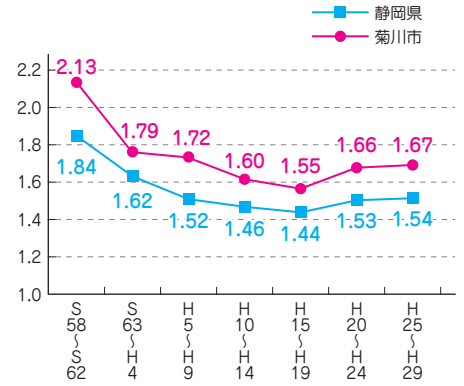


合計特殊出生率 [H25~H29]

1.67

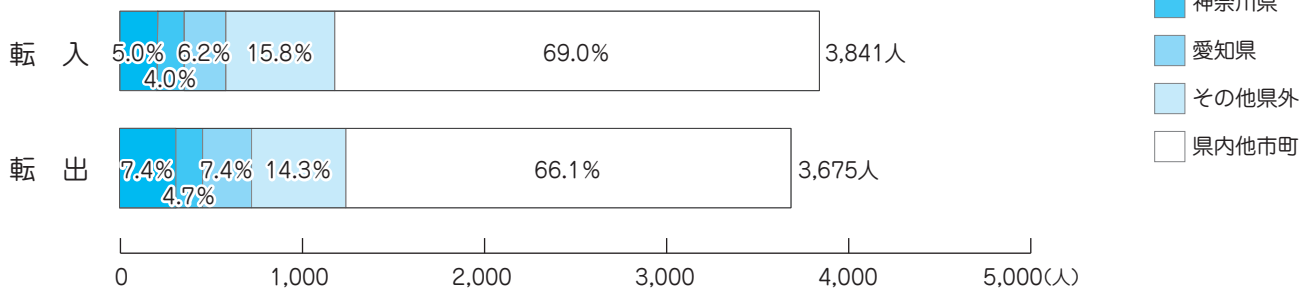
- 人口 48,598人
- 世帯数 18,100世帯
- 総面積 94.19km²

※令和2年1月1日現在



1 合計特殊出生率に影響を及ぼす転入・転出数

【対象】20~34歳 【期間】H25~H29年

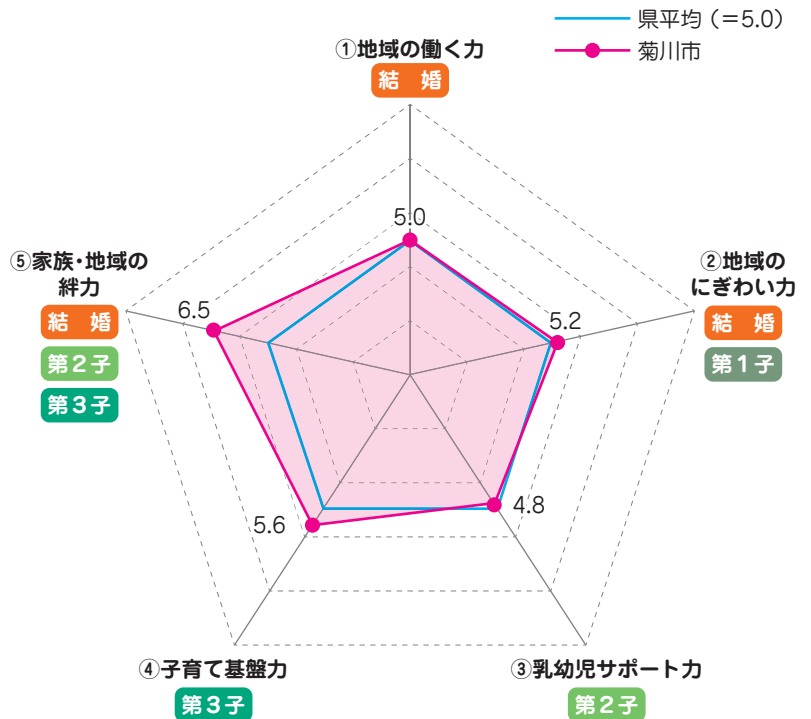


2 合計特殊出生率の要因分解

結婚要因 出生力要因
第1子 第2子 第3子以上



3 合計特殊出生率に影響を及ぼす新しい5つの地域力



「要因分解」の結果と「5つの地域力」との関係

結婚要因

「②地域のにぎわい力」「⑤家族・地域の絆力」がいずれも県平均を上回っており、+0.26につながったと考えられる。

第2子要因

「⑤家族・地域の絆力」は県平均を上回り、「③乳幼児サポート力」は県平均を下回っているものの、今回分析対象とした指標以外の「独自の地域特性」の影響により、▲0.02になったと考えられる。

4 少子化“突破”に向けた特徴的な取組

若者の地域への愛着を深める「高校生ふるさとセミナー」

《目的》

次世代を担う子どもたちが、さまざまな体験を通じて地域と触れ合い、地域を知り、主体的に考え行動することで、未来の菊川市を担う人材を育成するとともに、地域との関わりから子どもたちの郷土愛を育む。

《概要》

市内2校の高校生が地域の課題を主体的に捉え、講義やフィールドワークなどを通して解決策を見出し、若い世代の発想力や行動力を活かした、活力ある地域社会を創る。

- 平成28年に市内2校とフレンドシップ協定を締結し、各校で特色ある活動を開始。
 - ・県立小笠高校「地域の課題を考える教科連携課題研究」
地域貢献人材育成や社会的・職業的自立を促すこと等を目的に総合学科の特色を活かし教科の枠を超えた課題解決型学習。
 - ・常葉大学附属菊川高校「みらい学講座」
社会的視野の拡大と共に、地域につながりを持ち、主体性や課題発見能力を養うこと等を目的に実習・フィールドワーク等を実施。
- 1年間の活動成果を発表する「高校生まちづくりプレゼンテーション大会」を開催。



ふれあい体験の様子



プレゼンテーション大会の様子

5 わがまちのアピールポイント

●子育て世代を中心に人口が着実に増加

転入人口が転出人口を上回り、5年連続で人口が増加。特に20～40代の子育て世代が増加。

●幼保施設の整備や支援の充実

民間保育所等への施設整備支援及び保育士等就業奨励金による保育環境を充実させるとともに、副食費補助による保護者負担の軽減を実施。

●市民の「郷土愛」の醸成や市民参加による住みよいまちの環境づくり

地域住民が集うことができるにぎわいの場、地域コミュニティ活動の拠点づくりのための庁舎東館「プラザきくる」の活用を促進。

6 首長からひとこと

広がる つながる 子育てのわ きくがわ

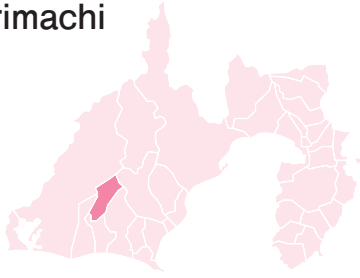


人口減少が進むなかで、選ばれ続けるまちであるためには、人を惹きつける魅力があり、市と関わる人々がいきいきと生活できることが重要です。次世代を担う子どもたちを育むため、家庭・幼保施設・学校・地域・企業・行政がそれぞれの役割を持って、「子育てのわ」を広げ、つなげてまいります。

菊川市長 長谷川 寛彦

森町

Morimachi

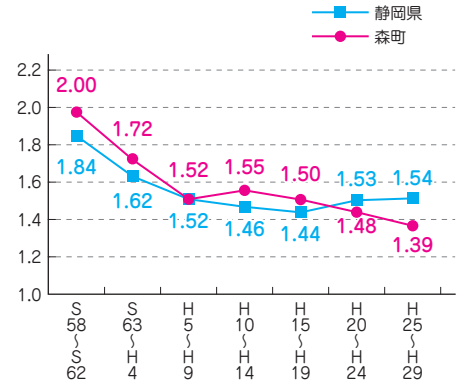


合計特殊出生率 [H25~H29]

1.39

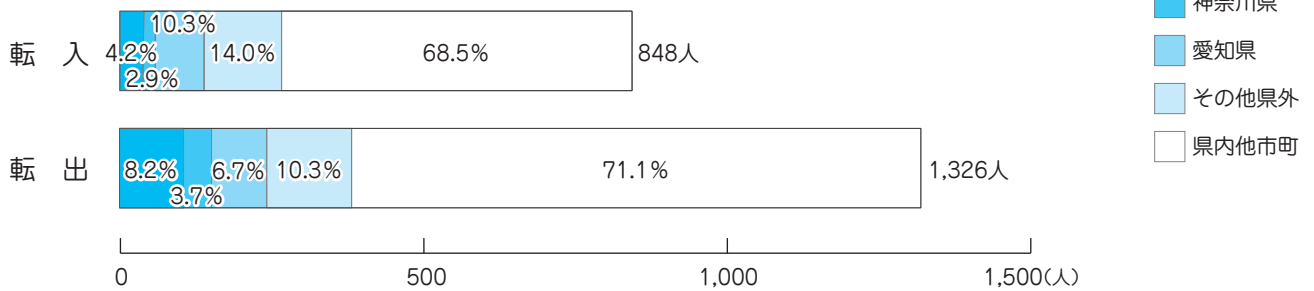
- 人口 18,243人
- 世帯数 6,643世帯
- 総面積 133.91km²

※令和2年1月1日現在



1 合計特殊出生率に影響を及ぼす転入・転出数

【対象】20~34歳 【期間】H25~H29年

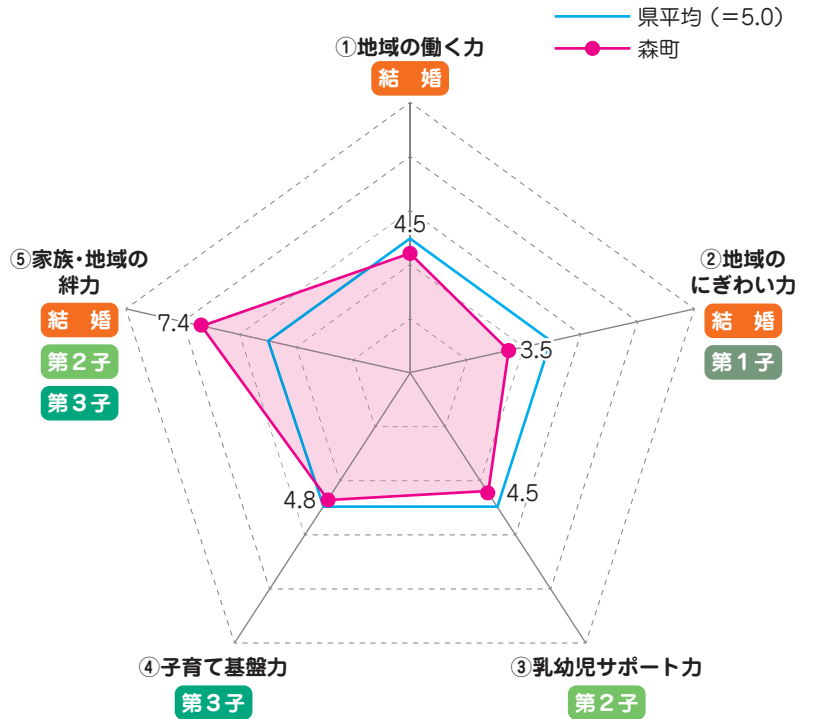


2 合計特殊出生率の要因分解

結婚要因 出生力要因
第1子 第2子 第3子以上



3 合計特殊出生率に影響を及ぼす新しい5つの地域力



「要因分解」の結果と「5つの地域力」との関係

結婚要因

「⑤家族・地域の絆力」は県平均を大きく上回ったものの、「①地域の働く力」「②地域のにぎわい力」は県平均を下回っており、⑤と①②の効果が打ち消し合い、▲0.23になったと考えられる。

第2子要因、第3子以上要因

「③乳幼児サポート力」「④子育て基盤力」は県平均を下回ったものの、「⑤家族・地域の絆力」は県平均を大きく上回っており、+0.09につながったと考えられる。

4 少子化“突破”に向けた特徴的な取組

「母子保健コーディネーター」、「保育コンシェルジュ」による子育て支援

《目的》

妊娠期から出産、子育て期までの様々な相談に応じ、専門的立場からのサポートにより、子育て不安の解消を図る。

さらに、近年多様化する保育ニーズに対応するため、保護者のニーズを丁寧に聞き取り、適切なサービスを案内することで子どもと保護者の“安心子育て・子育て”を支援し、子育ての負担軽減を図る。

《概要》

妊娠・出産・子育てのワンストップ相談窓口「森町子育て世代包括支援センター」では、保健師と母子保健コーディネーターが、妊娠・出産に関する不安や、子どもの発達などあらゆる子育ての相談に応じ、安心な子育てをサポートしている。また、保育コンシェルジュが保育を希望する保護者の相談に応じ、各家庭の状況を聞き取り、利用可能な保育施設等の情報提供を行い、保護者のニーズに合った適切な保育サービスを案内している。



保護者の相談に応じる保育コンシェルジュ

5 わがまちのアピールポイント

● 森っ子出産祝い金

出生したお子さんの誕生を祝い、第1子8万円、第2子10万円、第3子以降15万円を交付。

● 移住施策

町内に2箇所ある新東名高速道路ICの利便性を活かし、大都市圏へのPRを積極的に行っており、オンライン移住相談に加え、空き家・空き地バンクによる利用希望者とのマッチングを実施。地域おこし協力隊、移住コーディネーターによる地域力の向上、活性化にも取り組み、町の知名度を向上。

● 森女 HAPPY プロジェクトの活動

20歳～30歳代の若手女性職員により構成され、Instagramを使った森町の魅力発信など、若い女性ならではの視点で様々な活動を展開。

6 首長からひとこと

子育てに夢をもてるまち～みんなで子育て いきいきまちづくり～



森町では、令和2年3月に「第2期森町子ども・子育て支援事業計画」を策定しました。この計画に基づき、森町のすべての子どものより良い育ちを保障し、子どもと子育て家庭の安全・安心な子育てを支え合うまちづくりを一層充実させていきます。家族・地域の絆力の高さを活かし、さらに子育て・子育てしやすい地域を目指します。

森町長 太田 康雄